

- 問1 日本の技術貿易における、1990年と2015年の変化について述べた文として、最も適切なものを次から選びなさい。（2019年 茨城県公立入試 類似）
1. 1990年にはすでに輸出額が輸入額を大幅に上回っていたが、2015年にはその差が縮まり、ほぼ同等になった。
 2. 技術貿易の規模は1990年代をピークに縮小しており、2015年の輸出額と輸入額はともに1990年の値を下回っている。
 3. 1990年から2015年にかけて、常に輸入額が輸出額を上回る「技術赤字」の状態が続いている。
 4. 1990年当時は輸入額が輸出額を上回っていたが、2015年には輸出額が輸入額を大幅に上回ようになった。
- 問2 日本の主要な工業地帯の統計において、出荷額全体に占める機械工業の割合が約7割に達し、とりわけ自動車関連の工場が内陸部から臨海部にかけて数多く集まっている工業地帯の特色として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 大阪府公立入試 類似）
1. 北九州市を中心に、官営八幡製鉄所の設立以来、鉄鋼業を中心とする重化学工業が発展の基盤となった。
 2. 石油化学コンビナートが形成され、千葉県などの臨海部で化学工業が発達している。
 3. 愛知県の豊田市や刈谷市などを中心に、自動車の組み立て工場と多くの部品工場が密接に連携している。
 4. 大阪府や兵庫県を中心に、中小規模の工場から大規模な工場まで多様な産業が発展してきた。
- 問3 日本各地で展開されている「地場産業」の成り立ちや特徴を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 山口県公立入試 類似）
1. 高度な研究開発機能を必要とし、IC（集積回路）などを製造するため高速道路の周辺に発展した産業である。
 2. 海外から輸入した安価な原料を加工し、大量生産を行うために臨海部に形成された産業である。
 3. 大都市の消費者に新鮮な製品を届けるため、市場に近い都市近郊で発達した食料品加工を中心とする産業である。
 4. 特定の地域において、歴史的な背景や伝統的な技術を土台として発展し、地域の経済や雇用を支えている産業である。
- 問4 1930年代後半から2020年にかけての日本における1人あたりの食料消費量の推移について、統計上の傾向を説明したものとして最も適切なものはどれですか。なお、米は戦後一貫して減少傾向にある一方で、肉類などは増加傾向にあるものとします。（2026年 山梨県公立入試 類似）
1. 高度経済成長期に一時的に肉類の消費が増えたが、1990年代以降は健康志向の影響で再び米の消費量が戦前と同じ水準まで回復した。
 2. 食料自給率を向上させる政策が成功したため、戦後から現在にかけて米の消費量は一貫して増加し、肉類の消費量を大きく上回っている。
 3. 高度経済成長期を経て国民の所得が増えたことで、食生活の多様化が進み、米の消費が減る一方で肉類や乳製品などの消費が増加した。
 4. 生活水準の向上により、野菜の消費量は戦前から現在まで減り続けているが、その分を補うように米の消費量が急激に伸びている。
- 問5 日本において、発電量の中心が水力発電から火力発電へと入れ替わった1960年代の社会状況として、最も適切なものはどれですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）
1. 環境問題への関心が高まり、二酸化炭素を出さない発電が優先された
 2. 第一次石油危機が発生し、エネルギーの多角化が求められた
 3. 高度経済成長により、産業や家庭での電力需要が急激に増大した
 4. 全国的な大干ばつが数年続き、ダムの水が枯渇して発電ができなくなった
- 問6 日本の製造業において、円高の影響や低賃金労働力の確保などを目的として、工場などの生産拠点を海外へ移転させる動きが見られます。これにともない、国内の生産能力が低下し、雇用が減少するなどの問題が発生する現象を何と呼びますか。（2019年 山形県公立入試 類似）
1. 産業の高度化
 2. 産業の流動化
 3. 経済のサービス化
 4. 産業の空洞化
- 問7 日本において茶の栽培が盛んな静岡県や宮崎県などの地域に共通して見られる、気候上の特徴として最も適切なものはどれですか。（2020年 滋賀県公立入試 類似）
1. 一年を通して温暖であり、一月の平均気温が零度を下回らず、九月の降水量が多い。
 2. 夏は高温多湿であるが冬の寒さが厳しく、一月の平均気温が零度を下回る。
 3. 年間降水量は多いが、特に九月の降水量が百ミリメートルを下回るほど乾燥する。
 4. 一年を通して気温の変化が小さく、八月に降水量のピークがある。
- 問8 1970年から2000年にかけての日本の雇用状況を分析すると、就業者数全体は増えているものの、その内訳では15歳から64歳の割合が低下し、65歳以上の就業者が増加しているという特徴が見られます。このような変化が生じている背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 静岡県公立入試 類似）
1. 高度経済成長期の終焉により若年層の雇用が制限され、代わって熟練した技術を持つ高齢者が優遇されたため。
 2. 少子高齢化によって生産年齢人口が減少しており、人手不足を補うために高齢者の就業が進んでいるため。
 3. 第一次産業に従事する若者が急増した結果、定年制そのものが廃止され、高齢者が引退できなくなったため。
 4. 出生率が急激に上昇したことで教育費が高騰し、家計を助けるために高齢者が働く必要性がなくなったため。
- 問9 携帯電話の小型電池などに使われるコバルトやリチウムのように、地球上の埋蔵量が少なかったり、技術的・経済的な理由で抽出が難しかったりする金属の総称として正しいものを選択してください。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
1. 希少金属（レアメタル）
 2. 重金属
 3. ベースメタル
 4. 貴金属
- 問10 日本の人口分布について、1950年と2020年の統計を比較した資料に基づく、東京圏、大阪圏、名古屋圏を合わせた「三大都市圏」の人口割合には大きな変化が見られます。現在の日本における三大都市圏の人口状況を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。（2025年 秋田県公立入試 類似）
1. 東京圏への一極集中は進んでいるが、三大都市圏の合計では総人口の3割程度にとどまっている
 2. 東京圏、大阪圏、名古屋圏の合計人口が、日本の総人口の5割（半分）を超えている
 3. 名古屋圏と大阪圏の人口が激減したため、三大都市圏の合計人口は減少傾向にある
 4. 地方圏での人口増加が著しく、三大都市圏が占める人口の割合は1950年よりも低下している
- 問11 1960年代以降の高度経済成長期において、東京などの大都市圏では、都心部の地価が高騰し、生活環境も変化したことで、居住人口が減少しました。その一方で、鉄道沿線の郊外には大規模な住宅地である「ニュータウン」が開発され、多くの人々が移り住んだため、都市全体の人口分布が環状（わっか状）になりました。このような人口移動の現象を何と呼びますか。（2023年 福井県公立入試 類似）
1. ドーナツ化現象
 2. スプロール現象
 3. 限界集落の形成
 4. 過疎化現象
- 問12 地域の豊かな自然環境や独自の文化を壊すことなく観光資源として活用し、その保護と将来にわたる持続可能な利用を両立させようとする取り組みを何と呼びますか。（2023年 鳥取県公立入試 類似）
1. グリーンツーリズム
 2. アグリツーリズム
 3. マストーリズム
 4. エコツーリズム